



遠山名誉会長を偲ぶ

日本非開削技術協会会長 松井大悟

遠山名誉会長におかれましては、昨年8月19日に逝去されましたとの報をご家族の方から連絡いただきました。ご葬儀をご親族の方々により静かに行われたとのことでした。ご病気が長く静かに送ってあげたいとの配慮と思われま

す。遠山会長が最後に日本非開削技術協会（JSTT）の公式の会に参加されましたのは、平成17年6月の第16回通常総会の後に行われた「遠山名誉会長に感謝する会」でした。当日は17年間に及ぶJSTTに対する貢献に対し、多くの方が参加し80歳になられた遠山さんも元気にご挨拶をされました。その後も時々JSTTのある赤坂にお見えになり、ご指導をいただいておりますが、体調を崩され歩くことが困難な状況になられ、18年早々からはJSTTにはお見えになられませんでした。私はJSTTの会計報告をかねて18年7月にご自宅に伺いお会いしたのが最後になりました。その後は入院されたとの報を聞き、ご家族に連絡をしましたところ、静かに治療をさせてあげたいとのご返事があり、その後はこちらから積極的な接触をさせていたところの計報でした。

遠山会長のJSTTに対する貢献の大きさにつきましては、ここに表現するにはとてもページ数がたりません。次のNO-DIG TODAYで特集を行い貢献の詳細をご紹介しますと思っています。

今回は私の個人的な遠山会長とお付き合いのなかでの先輩に対する思いを述べさせていただきます。私が建設省に入省した当時は、埼玉県荒川左岸下水道組合の工務部長をされ、大口径の長距離推進工事、セミシールド工法を下水道界で最初に挑戦されている時代でした。現場で熱心に国道17号バイパスの道路舗装に先行して下水道管を敷設することの困難を説明され、マシンを見せていただいた記憶があります。この経験が、遠山会長がその後長く非開削技術の開発に熱心に取り組み始めた原点となったと思いま

私たちの敬愛する当協会遠山啓名誉会長が昨年8月19日に永眠されました。ここに、松井大悟会長、国土交通省松井正樹下水道部長様よりご寄稿いただきました追悼文をご紹介します。

す。その後は日本非開削技術協会を立ち上げ会長として、技術の発展に大きく寄与されました。1999年には国際非開削技術協会（ISTT）の会長に選任され、世界に技術の発展に寄与され、さらに日本の最新技術の世界への普及に大きな尽力をされました。

遠山会長はグルメであり、ドイツ歌曲を歌う等多くの趣味を持たれていました。特にゴルフは熱心でした。私は個人的に、何よりもご指導いただいたのはゴルフでした。前述の荒川下水道組合時代、浦和ゴルフで直接ゴルフ指導をいただいております。長いお付き合いが始まりました。特に印象深いのは愛知県で流域下水道に対する訴訟が提訴され、当時下水道事業団理事だったと思いますが、被告側証人を引き受けてもらいました。当時の流域下水道に対する批判は強く、だれも被告証人になっていただけない中で快く引き受けてくださいました。ただし条件が一つありまして、出来たら証人喚問ごとに、前後の週に会長のゴルフに付き合ってくださいということでした。当時被告証人だった元豊中市武島助役も交えて、原告の顔を思い出しながらボールをたたいたのが懐かしく思い出されます。

ISTTの副会長、会長時代、世界中のISTTの総会・展示会に出席されましたが、時間の余裕のあるときは、まずゴルフをプレーされていました。外国の幹部の方もそのことはよくご存知で、今回はこの時間が空いているからプレーをセットしておきます等の連絡が残っています。遠山会長は即断即決で小気味良いプレーをされました。ティグラウンドに立ちティショットを打つまでの時間があまりにも早く、キャディはびっくり、仲間は何時打ったのかわからないほどでした。本当に考えてプレーしているのかとの意見もありましたが、結果は上々でした。また会長のゴルフコースの記憶力は抜群で、本当によく過去のコースのレイアウトを覚えておられました。このことがプレーの速さと関係があったかどうかわかりませんが、なにかありそうです。一度車で通った道もほとんど覚えておられ、ナビゲイターとして良く使われていました。

遠山会長は台湾で学生生活をおくられた関係で、知古も



多く台湾に対する思い入れは深いものでした。私はJSTTとCTSTT（台湾非開削技術協会）との交流で台湾行くこともあり、その帰国報告に行きますと、誰に会ったのかに始まる質問が続き関心の高さをいつも感じていました。台湾時代の学校の後輩も下水道界におられ、彼らも一度台湾で遠山さんに会いたいと行くたびに言われ、遠山会長の現況を知りたがっていました。遠山会長は最後まで、もう一度

台湾に行ってゴルフ、特に淡水ゴルフでプレーしたいと言われていました。名誉会長にはもう一度生まれ故郷に行ってもらいプレーをしてもらいたいと思っていましたが、残念ながらありませんでした。最後になりましたが、長い間非開削の技術の普及・発展に対するご貢献ありがとうございました。ご冥福をお祈りしお別れの挨拶といたします。



遠山啓先生のご逝去を悼む

国土交通省下水道部長 松井正樹

遠山先生が天寿を全うされ永眠なされました。生前、遠山先生からご指導いただいた者の一人として、誠に残念な思いですが、衷心よりご冥福をお祈りいたします。

遠山先生は、建設省下水道部長、日本下水道事業団理事長、日本非開削技術協会会長と要職を勤められ、文字通り我が国の下水道整備の推進に多大な功績を残されました。この功績が評価され、叙勲の誉れにも浴されました。

先生は、建設省在職時代から一貫して下水道行政に携われ、昭和30年代から50年代にかけて、第一線で陣頭指揮を執られてこられました。この時期は、一部の大都市しか下水道事業を実施していない時代から全国的に下水道整備を展開しようとする、言わばナショナルミニマムとしての下水道の黎明期から出芽期にあたる時代だったと思います。別の言い方をすると、今日の下水道行政の基礎を築いた極めて重要な時期でもあったと申せましょう。下水道法の制定に始まり、昭和45年度下水道法大改定、計画・事業面では、流域別下水道整備総合計画の位置づけ、流域下水道の創設、特定環境保全公共下水道の事業化等々、下水道政策の骨格が遠山先生のご奮闘により形を見たといっても過言ではないと思います。社会基盤としての下水道の必要性

に信念を持たれた遠山先生の卓越した構想力、実行力、指導力、そして難局での決断力は永遠に評価されるものと確信しております。

私が遠山先生に直接お仕えしたのは僅か2年間でしたが、入省したばかりの新米職員である私にとって、真剣な眼差しとともに大きな包容力を感じさせる絶大な存在でした。優しく声をかけていただいた時、にっこり笑われた時などは感激したものでした。いつも紳士の立ち振る舞いであった先生も、忘年会などで興に乗ると、時に美声を聞かせることもあったように記憶しております。

随分昔のことになりますが、昭和56年度政府予算案が編成される時のことです。当時の下水道部は第2種流域下水道の創設を要求していたのですが、12月の土壇場で制度創設が危ぶまれたことがありました。時の下水道部長の遠山先生は、率先して国会筋を説得に回られ、また関係省との調整に指導力を発揮され、何とか制度化が実現したことがありました。この時の、遠山先生のドーンと落ち着いた見事な采配ぶりは今でも新鮮に脳裏に残っています。

遠山先生にはこれからもご指導いただけるものと思っておりましたが、叶わぬこととなりました。改めて生前頂いたご厚情に感謝申し上げますとともに、ご指導いただいた者として恥じぬよう、先生の遺産をさらに大きくしていくべく、思いを新たにす次第であります。 合掌。